



大阪大学

# 歯 技 会

第37回 技工研究談話会

プログラム・抄録集

2019年5月12日(日)

大阪 ドーンセンター 大会議室 3

## ■ 第 37 回 技工研究談話会 プログラム

〈発表者敬称略〉

14:00～14:05 開会挨拶

14:05～14:40 口 演 1 「 シグナリングが歯科技工士の未来を拓く 」

梁本 昌功 (第 26)

14:40～14:50 休憩・発表準備

14:50～15:40 口 演 2 「 デジタル技工の役割 」

山内 佑太 (第 53)

15:40～15:50 休憩・発表準備

15:50～16:20 口 演 3 「 松風から提案するオールセラミックスクラウン  
へのアプローチ 」

～新規ステイン用陶材と山本リキッドについて～

南浦 貴行 (株式会社 松風)

16:20 閉 会

※ 各口演時間内に質疑応答を行います。

休憩・発表準備は、進行状況により適宜調整させていただきます。

## ■ 口演 1

### 「シグナリングが歯科技工士の未来を拓く」

発表者：梁(本)昌功 (第26)

株式会社 シーエス24 代表取締役社長

#### 【学歴】

昭和62年3月 大阪大学歯学部附属歯科技工士学校卒

昭和63年3月 大阪工業大学工学部応用化学科卒

平成元年3月 大阪大学歯学部附属病院歯科技工研修課程修了

平成25年3月 大阪大学歯学部研究課程(医療情報系)修了

#### 【学会発表履歴】

第15回 日本歯科医療管理学会関西支部 学術大会 (2012.8.26)

:データベース連動型 Web サイト活用による歯科補綴物トレーサビリティの実践について

第34回 日本歯科技工学会 学術大会(2012.9.15)

:Webサイトを活用した歯科補綴物トレーサビリティシステム 第1報 システム構築と実践

第32回 医療情報学連合大会 (2012.11.15)

:地域医療連携を目指した歯科補綴物トレーサビリティシステムの実装と運用

第33回 医療情報学連合大会 (2013.11.20)

:災害時対応を前提に口腔領域の診療録から抽出しておくべき情報は何か?

#### 【学会誌掲載】

第544号 日本歯技 (2014年10月号)巻頭テクニカルレビュー

:歯科技工装置標準化コードを実装した技工管理用フリーソフトによるトレーサビリティシステム

#### 【執筆】

医療機器情報コミュニケーター(MDIC)標準テキスト「医療情報編」(第1版及び第2版)

第6章・医療情報の標準化 (共同執筆)

#### 【概略】

少子高齢化やデジタル化に伴い歯科技工士を取り巻く環境が大きく変わってきた。本講演では、各種統計データをはじめ、厚生労働省が発表した「保健医療2035」の提言や総務省の「Society 5.0」科学技術基本計画で記された方針等を基に、これからの歯科技工士に必要なスキルは何かを探求し報告する。

結果として、歯科技工士には予防歯科や保存歯科分野への対応が課題であり、行動経済学的な見地から「シグナリング効果」の活用が必要であることが分かった。

以前我々が実証実験を行った「歯科技工装置標準化コードを実装した技工管理用フリーソフトによるトレーサビリティシステム」の経過報告と共に、これからの歯科技工士が行わなければならない「シグナリング」の具体例を紹介し、次世代の歯科技工士への指針を提案する。

## ■ 口演 2

### 「 デジタル技工の役割 」

発表者： 山内 佑太 (第 53)  
株式会社 Johnny's Factory

#### 【略歴】

昭和 62 年 6 月 23 日生 (32 歳) 大阪府大阪市出身  
平成 19 年 大阪府立工業高等専門学校 卒業  
平成 22 年 長岡技術科学大学 工学部 中退  
平成 26 年 大阪大学歯学部附属歯科技工士学校 卒業  
平成 26 年 株式会社 LAZARUS 入社  
平成 27 年 株式会社 Johnny's Factory 入社

#### 【所属】

Study Group NHK / Study Group Amorphous / 日本デジタル歯科学会会員

#### 【概略】

専門学校を卒業後、デジタル技工専属の技工士として臨床に携わり 5 年が経過した。自費専門のコマーシャルラボとして歯科医院や歯科技工所からの仕事を受注する中、様々な補綴様式の技工に対応しなければならない。その様な状況の中でオープンシステムの CAD/CAM 設備を導入し、症例に応じて複数のシステムを組み合わせることで最適な技工物が製作出来ないかを模索してきた。

近年はインプラントの埋入計画時からデジタルツールを利用することにより補綴主導のインプラント治療を行い、理想的な最終上部構造を設計することをゴールに定めている。その達成のためにはデジタルだけでなく、アナログの技工と高い水準で融合をすることが求められる。弊社ではデジタル技工の分野に特化しており、アナログの技工に関しては併設する株式会社 LAZARUS との綿密な連携のもと日々の業務に取り組んでいる。更には MEGAGEN インプラントのガイドシステムである R2GATE の日本のセンターとしての役割も担っており、インプラントの埋入から補綴の完成までを一貫して行う事が出来るという点で大きな強みがあると考えている。

本発表では、日々の業務における弊社でのデジタル技工についての取り組みと、現在最も優れた補綴様式の一つと考えている AGC についてその利点や製作工程を紹介する。また、診断用 WAXUP から導いたサージカルステントを使用しての正確なインプラントポジションの決定後、上顎の補綴に AGC コーヌスブリッジを用いた咬合再構成の症例における、デジタル技工の役割について発表する。

## ■ 口演 3

### 「 松風から提案するオールセラミックスクラウンへのアプローチ 」

～ 新規ステイン用陶材と山本リキッドについて ～

発表者：南浦 貴行  
株式会社 松風 営業部学術課

#### 【概略】

歯科用セラミックス用着色材料(パウダータイプ)「ヴィンテージ アート ユニバーサル」のグレース(GP 及び GP-F)は、ジルコニア、二ケイ酸リチウム、各種築盛用陶材などの様々なセラミックス材料を、薄い塗布層で滑沢にすることができるパウダータイプのグレースです。特に蛍光性を付与した GP-F は、他社蛍光性グレースと比べて強い蛍光性を有しています。このため、GP-F を使用することで、蛍光性のないジルコニア製クラウンに、天然歯と同等の蛍光性を付与することができます。当製品のガラスは、低温で融解できるように複数の成分を混合しており、この成分組成により、薄い塗布層でも高い表面光沢性を誇るグレースとなりました。この表面光沢性により、1 回焼成のみで歯科補綴装置を滑沢に仕上げることも可能です。そして現在は各カラーステインが追加され、フルラインナップを揃えています。

当製品は弊社独自の低融ガラス技術により 730℃での焼成を可能としました。これにより、低温焼成が必須となる二ケイ酸リチウム材料での使用はもちろん、焼成時に熱の伝わりにくいジルコニア材料においても安定した光沢層が得られます。また、ジルコニア、二ケイ酸リチウムとの熱膨張差が最適に設定されています。このため、クラック発生などのリスクが最小限に抑えられています。

今回のステイン増色に伴い、新しい練和液「山本リキッド」が追加されました。この「山本リキッド」を使用することで、ステイン本来の色調(焼成後の色調)を焼成前のステイニング作業の段階で確認することが可能となりました。この山本リキッド・テクニックは、1980年代に山本 眞先生が考案された技法です。陶材に使用されているガラスの屈折率に適合した当製品を築盛時に使用することで、ステイン本来の色調を容易に確認できます。

今回はこれら製品のオールセラミックスクラウンへのアプローチを紹介させていただきます。

